

授業要項



2022年度（1学年）

富士市立看護専門学校

目 次

1. 履修の手引き	1
2. カリキュラムポリシー	5
3. 進度表	6
4. 行事・教科外活動	7
5. 各年次の履修科目と時間数	8
6. 基礎分野	
国語	10
ICT と情報モラル	11
心理学	12
生物学	13
生命倫理	14
7. 専門基礎分野	
解剖生理・疾病論 I	15
解剖生理・疾病論 II	17
解剖生理・疾病論 III	19
解剖生理・疾病論 IV	21
解剖生理・疾病論 V	23
解剖生理・疾病論 VI	25
解剖生理・疾病論 VII	27
看護につながる解剖生理 I	30
看護につながる解剖生理 II	31
生化学	32
微生物学	33
感染管理論	34
病理学	36
8. 専門分野	
基礎看護学	
看護学概論	37
看護過程展開の技術	38
共通基本技術 I	39
共通基本技術 II	42
生活援助技術 I	44
生活援助技術 II	46
生活援助技術 III	48
臨床看護方法論	50
臨床判断演習 I	53
地域・在宅看護論	
成人看護学	
看護学概論	54
成人看護学総論	56
成人看護学 I	58
老年看護学	
小児看護学	
母性看護学	
老年看護学総論	61
小児看護学総論	63
母性看護学総論	65

履修の手引き

この手引きは、履修のために必要なことが書かれています。熟読かつ活用して、効果的に学修しましょう。

また、学生便覧の成績評定に関する規程、成績評定に関する規程細則についても熟読し、計画的に履修しましょう。

1. 単位取得についての注意点

- 1) 卒業までに 110 単位の履修が必要です。履修科目は全てが必修科目です。
- 2) 履修科目は 1 年次・2 年次・3 年次と履修の時期や順序が決まっています。さらに、未修得科目的状況により、臨地実習の履修ができなくなるので、履修要件を把握し、くれぐれも単位を落とすことのないようにしましょう。

2. 評価方法について

- 1) 評価方法は筆記試験・レポート・実技試験・出席・授業態度等、各講師により異なります。授業要項で確認しておきましょう。但し、講師によっては授業要項の内容を変更する場合もありますので、開講後、担当講師の説明をよく聴いてください。
- 2) レポートをもって評価する科目については、指定された期限内に提出しなければなりません。やむを得ない理由により指定された期限内に提出できない者は、成績評定に関する規程に準じます。
- 3) 学科試験の受験資格は、当該学科の授業時間数の 2/3 以上の出席を要します。なお、やむを得ない理由により欠席する場合を除き、授業全てに出席することが望ましいです。時間数の少ない講義もあるため、全ての時間に出席できるよう自己管理してください。
- 4) 追試験は病気・忌引き・公共交通機関の遅れ・就職試験・進学の受験・その他校長が特別の事情と認めた場合には、必要な添付書類と追試験受験願を提出することで受験できます。詳細は学生便覧の成績評定の規程第 4 条を参照してください。
- 5) 再試験を受けようとする者は、合否決定の翌日の午後 5 時までに再試験受験願を提出しなければなりません。提出できない者は、成績評定に関する規程に則り、受験できません。
- 6) 複数の講師により構成される科目については、それぞれに評価方法を提示してあるので、事前に確認してください。

3. 開講時の準備について

※ 授業を受ける際の注意点

1 単位の学修時間は「45 時間」と文部科学省にて定められています。そのため、授業時間

が 45 時間より少ない場合は、その不足する時間数は「自己学修時間」と設定されています。
(例えば、1 単位 15 時間の授業の場合は、不足する 30 時間が自己学修時間であり、1 単位が 30 時間の授業の場合は、15 時間が自己学修時間である) その点を意識して、十分な自己学修を行う必要があります。

- 1) 時間割で初講・終講、試験日を確認し、計画的に学修を進めてください。
- 2) 初講前には必ず授業要項を読み、科目の概要を把握し、必要なテキストを準備してください。また、講義によっては事前学修課題が提示されることがありますので、計画的に課題学修を行い、授業に臨んでください。

4. テキスト・副読本の取り扱いについて

- 1) デジタル教科書については、オリエンテーションを設けるため、使用方法・注意点等について理解し効果的に活用してください。
- 2) 冊子版のテキスト・副読本は購入後速やかに不足や乱丁等を確認し、不都合のある場合は、直接購入書店に連絡してください。
- 3) 冊子版のテキスト・副読本には必ず名前を書き紛失しないようにしてください。紛失した場合には再度購入が必要となります。

5. 効果的な学修のために

- 1) わからないことをそのままにせず質問する等、理解できるように努めましょう。
- 2) 知識は、最終的には患者の看護に活かすものです。暗記するだけでは役に立たず、根拠を踏まえ理解する必要があります。知識を積み重ね、関連性を意識して学修しましょう。
- 3) 講義では重要な点について取り上げています。一回だけのものですから大切にしましょう。集中することが知識の定着につながります。
- 4) 講義資料は整理し活用できるようにしましょう。その後の臨地実習の準備学修や国家試験の学修に役立ちます。
- 5) 高校までの授業と違い、板書をきれいにするような講義スタイルはほとんどありません。講師の話を聞きながら重要な点にアンダーラインを引いたり、ノートやテキストにメモしたりするようなスタイルの講義が多くなります。またグループワークを行い、まとめ上げて発表することや、自分の考えをレポートにまとめて提出することも増えます。受け身ではなく、主体的に学修する姿勢が大切です。

6. その他の注意事項

1) 時間割の変更について

時間割の変更は 1 階掲示板にて連絡します。緊急時は口頭でお知らせします。掲示板は、登校時及び下校時には確認する習慣をつけましょう。

2) 終講時は一部の講師に対しては「授業評価」を行います。目的はその科目に対する学生

自身の学修姿勢や学びを振り返り、講師や教員の授業改善に向けての評価のために実施しています。授業評価の結果は担当講師に伝えます。真剣な取り組みをお願いします。

- 3) 講義中は私語や飲食は禁止です。
- 4) 原則として携帯電話・スマートフォンは電源を切り、 授業で使用する場合は教員の指示に従ってください。デジタル教科書をダウンロードしたタブレット等は使用できません。
- 5) 居眠りはしないでください。
- 6) マナーが悪い場合には退室を命じる場合もあります。出席時間として認められなくなります。
- 7) 校内での演習中はお互いを姓で呼び合い、丁寧な言葉遣いを習慣化してください。

7. 学科試験実施要領（単位認定試験）

学科試験においては、以下の実施要項に従い、確実に単位を修得してください。

1) 学科試験の目的と心構え

学科試験（単位認定試験）は学生の成績評価方法の一種として行われますが、国家試験の受験資格や卒業要件、大学編入や大学院進学の条件となるものです。したがって試験を神聖なものとして重く受け止め、カンニングや不正行為のないようにしてください。試験中の不正行為やそれと疑われる行為があった場合は、単位の修得の取り消しや懲戒処分の対象になります。

2) 単位認定試験の注意事項

- ・ 座席は学籍番号順とする。
- ・ スマートフォンや携帯電話の電源は切り、試験前に全てを回収ボックスに入れる。
- ・ 机の中や横に物を置かないこと。
- ・ 机の上に落書きや走り書きがないことを確認し、あれば消す。
- ・ 机と机の間隔は均等にする。
- ・ テキストやノート、電源を切ったタブレットはカバンに入れ、教室後ろのロッカーに入れるか、更衣室のロッカーに入れる。教室後ろのロッカーの上には物を置かないこと。
- ・ 貴重品は、各自が責任持って管理する。
- ・ 机の上には、鉛筆（シャープペン）・消しゴムのみを準備し、原則として、それ以外の物は置かないこと。
- ・ やむを得ず、テクシュペーパー、膝掛け等を使用したい場合は、開始前迄に試験監督者に申請し許可を得る。
- ・ 試験開始前の私語は厳禁であり、学生は5分前には着席して待つようとする。
- ・ 試験問題や解答用紙が配布されたら、試験監督者の指示があるまでは触れてはいけない。
- ・ 試験開始の合図があったら、学籍番号と名前を記載する。
- ・ 試験問題等に不鮮明な個所がある場合は静かに挙手し、試験監督者に伝える。

- ・ 試験中に気分が悪くなった場合やトイレに行きたくなった場合は静かに挙手し、試験監督者の指示に従うこと。
 - ・ 試験時間内の退出は認めない。(原則として45分間)
 - ・ 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置く。
 - ・ 試験監督者の指示に従って解答用紙と試験問題を全て回収する。
 - ・ 試験監督者からの解散の合図があるまでは着席して待つ。
- 3) 遅刻者への対応
 - ・ 試験開始予定時刻より15分を超えて遅れた場合は、試験を受けることができない。
 - 4) 不正行為の禁止
 - ・ 試験中の不正行為や試験中の不正行為と疑われる行為は、戒告や停学の懲戒処分に該当する行為となる。
 - ・ カンニングは不正行為である。
 - ・ 試験監督者の指示に従わない、または不正行為と疑われる行為(キヨロキヨロする、覗き込む等)が認められる場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。
 - ・ 試験用紙及び解答用紙の配布や回収時に私語があった場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。
 - ・ 携帯電話やスマートフォン、タブレットで試験問題の撮影をした場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

富士市立看護専門学校は、あたたかな感性でひとりひとりに寄り添い、自ら学び考え行動する実践者を育てるカリキュラムを編成し、実施する。

1. 6つの力（関係を築く力、考える力、実践する力、連携・協働する力、倫理に基づいて行動する力、自己研鑽をし続ける力）を身につけるために、ディプロマポリシーに沿って科目を設定し、カリキュラムツリーとして提示する。（別紙）
2. 基礎分野、専門基礎分野、専門分野で構成し、基礎分野や専門基礎分野は経験を踏まえて学びを発展できるように3年間を通して配置する。
3. 自己の課題に主体的に取り組み、学び続ける姿勢をもつことは専門職として重要であることから、アクティブラーニングやシミュレーション、ICTの活用を積極的に取り入れ、「自ら学ぶ」ことを支援するカリキュラムを編成する。
4. 多様化する医療ニーズに対応できるよう、状況に応じた看護を考える力を身につけるために、臨床判断につながる解剖生理や臨床判断を段階的に学ぶ演習を設定する。
5. 実践者を育てるカリキュラムとして、1年次早期より基礎看護技術の演習や臨地実習を配置し、準備と振り返りを充実させて、効果的に積み重ねていくことができるようとする。
6. 人間を生活者として総合的に理解し、多様な場で生活する人々への看護を学ぶために、病院実習より早期の1年次前期に、地域の人々の生活と健康生活支援を知る「地域看護実習」を行う。
7. 豊かな人間性を育み、感性を磨き、関係を築く力を育てるために、行事や教科外活動を行う。また、「心理学」、「人間関係論Ⅰ」、「人間関係論Ⅱ（エンカウンター・グループ研修）」、「文化と健康」、「運動と健康」といった科目を設定する。
8. 倫理に基づいて行動する力を養うために、1年次『看護職の倫理綱領』（「看護学概論」）、「生命倫理」、2年次「成人看護学Ⅲ（終末期看護、緩和ケア）」、「老年看護学Ⅱ（エンドオブライフケア）」、3年次「医療概論（医の倫理、患者の人権、終末期ケア）」など、3年間を通して配置する。また、3年間の臨地実習を通して、専門職業人としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践できるように実習目標を設定する。
9. 大規模地震が想定される地域に立つ看護学校として、災害看護や救命救急処置などの科目及び演習を設定する。

進度表 令和4年度～令和6年度

行事・教科外活動

	1年次	2年次	3年次	時期
行事・教科外活動	入学式	3	3	4月
	オリエンテーション	20		4月
	フレッシュマン研修	16		4月
	生活安全講話	2	2	4月
	防災訓練	3	3	4月
	健康診断	2	2	4月
	オープンキャンパス	4	4	7月
	救急の日	4		9月
	学生祭	16	16	11月
	宣誓式	3	3	1月
	記念講演会	2	2	1月
	地域の病院を知る会	3		2月
	卒業式	3	3	3月
各学年小計		81	38	32
合計 (時間)		151		

学修支援時間

	1年次	2年次	3年次	時期
クラス運営	4月		2	4月
	7月	2	2	7月
	8月	2	2	8月
	12月	2	2	12月
	1月	2	2	1月
	3月	2	2	3月
その他	進級講話		2	4月
	入学式全体練習		2	4月
	宣誓式総練習	2	2	5月
	卒業式総練習	2	2	3月
	EGオリエンテーション		2	6月
	ケースレポート聴講		6	8月
	ケースレポート準備		2	8月
	学生祭準備	4	2	11月
	国家試験手続き		2	11月
	国家試験模擬試験	6	60	4月～3月
臨地実習準備・まとめ	基礎Ⅰ実習準備・まとめ発表	8		9月～10月
	基礎Ⅱ実習準備・まとめ発表	8		12月
	経過別Ⅰオリエンテーション		2	6月
	領域全体オリエンテーション		2	1月
	母性オリエンテーション		2	1月
	小児オリエンテーション		2	1月
	老年オリエンテーション		2	2月
	経過別Ⅱオリエンテーション		2	1月
	急性期・周術期オリエンテーション		2	1月
	精神オリエンテーション		2	3月
在宅オリエンテーション			2	2月
各学年小計		40	56	86
合計 (時間)		182		

1年次 履修科目と時間数

基礎分野								
科目	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	評価	試験月
国語(文章表現)	2	30	大学教員	外部	4月	100	試験	9月
ICTと情報モラル	ICTオリエンテーション	2	専任教員	内部	4月			
	ICTと情報モラル	28	大学講師	外部	4月	100	試験	10月
心理学	1	30	公認心理師	外部	5月	100	試験	11月
生物学	1	30	大学教員	外部	4月	100	レポート	12月
生命倫理	1	15	医師	外部	11月	100	レポート	2月
<1年次計>	6	135						

専門基礎分野								
科目	単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	評価	試験月
解剖生理・疾病論 I	解剖生理学総論	6	校長(院長)	外部	4月	20	試験	7月
	解剖見学	6	大学教員	外部	8月	20	出席/レポート	8月
	呼吸器系解剖生理	8	病院医師	外部	4月	25	試験	7月
	呼吸器系疾病論	10	医師	外部	5月	35	試験	7月
解剖生理・疾病論 II	循環器系解剖生理	12	病院医師①	外部	4月	40	試験	10月
	循環器系疾病論	12	病院医師②	外部	6月	40	試験	10月
	皮膚 解剖生理・疾病論	6	病院医師③	外部	9月	20	試験	10月
解剖生理・疾病論 III	骨・筋系解剖生理・疾病論	24	病院医師①	外部	5月	80	試験	1月
	眼 解剖生理・疾病論	6	病院医師②	外部	11月	20	試験	1月
解剖生理・疾病論 IV	消化器系解剖生理・疾病論	26	病院医師①	外部	5月	80	試験	11月
	口腔 解剖生理・疾病論	4	病院医師②	外部	10月	20	試験	11月
解剖生理・疾病論 V	腎系解剖生理・疾病論	14	病院医師①	外部	11月	50	試験	2月
	泌尿生殖器系解剖生理・疾病論	8	病院医師②	外部	10月	25	試験	2月
	女性生殖器系解剖生理・疾病論	8	医師	外部	1月	25	試験	2月
解剖生理・疾病論 VI	脳神経系解剖生理・疾病論	22	病院医師①	外部	10月	70	試験	2月
	耳鼻咽喉 解剖生理・疾病論	8	病院医師②	外部	2月	30	試験	2月
解剖生理・疾病論 VII	代謝・内分泌系解剖生理・疾病論	12(16)	病院医師①	外部	10月	40	試験	1月
	血液・造血器系解剖生理・疾病論	12	病院医師②	外部	1月	40	試験	2月
	免疫・感染症	6	看護師	外部	1月	20	試験	2月
看護につながる解剖生理 I	臨床判断につながる解剖生理(呼吸器系)	8	専任教員	内部	9月	50	試験	11月
	臨床判断につながる解剖生理(循環器系)	7	看護師	外部	10月	50	試験	11月
看護につながる解剖生理 II	臨床判断につながる解剖生理(運動器系)	7	専任教員①	内部	11月	50	試験	1月
	臨床判断につながる解剖生理(消化器系)	8	専任教員②	内部	10月	50	試験	1月
	生化学	2	臨床検査技師	外部	5月	100	試験	11月
	生化学補讀(臨床検査)	(4)	病院臨床検査技師	外部	11月			
	微生物学	1	15	臨床検査技師	外部	11月	100	試験
								2月
	感染管理論(感染予防の技術・演習を含む)	1	15	感染管理認定 看護師	外部	4月	100	試験
					専任教員(演習)	内部		6月
	病理学	1	15	病院医師	外部	4月	100	試験
<1年次計>	14	323						

科 目		単位	時間数	担当講師	内外の別	開講時期	配点	評価	試験月
基礎看護学	看護学概論	1	30	専任教員	内部	4月	100	試験	9月
	看護過程展開の技術	1	30	専任教員	内部	6月	100	課題	2月
	共通基本技術 I	1	12	専任教員①	内部	4月	40	試験・演習	6月
			10	専任教員②	内部	5月	30	試験・演習	6月
			8	専任教員③	内部	2月	30	課題・演習	2月
	共通基本技術 II	1	30	専任教員	内部	4月	100	試験・演習・パフォーマンス評価	9月
	生活援助技術 I	1	22	専任教員①	内部	5月	70	試験・演習・パフォーマンス評価	10月
			8	専任教員②	内部	6月	30	試験・演習	10月
			12	専任教員①	内部	4月	40	試験・課題	
	生活援助技術 II	1	18	専任教員②	内部	6月	60	試験・演習・パフォーマンス評価	11月
	生活援助技術 III	1	30	専任教員	内部	5月	100	試験・演習・パフォーマンス評価	10月
	臨床看護方法論	1	10	専任教員①	内部	9月	30	試験	
			4	専任教員②	内部	10月	20	パフォーマンス評価・課題	1月
			10	専任教員③			30		
			6	専任教員④			20		
	臨床判断演習 I (主要な症状を示す対象者の看護)	1	8	専任教員①	内部	1月	25		2月
			8	専任教員②			25		
			14	専任教員③			50		
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論 I (地域で暮らす人々と家族の支援)	1	14	専任教員	内部	6月	50	演習・課題	7月
			12	保健師	外部	2月	30	演習レポート	2月
			4	大学教員	外部	2月	20	演習/レポート	2月
	家族の理解と支援								
成人看護学	成人看護学総論	1	22	専任教員①	内部	5月	70	試験	11月
			8	専任教員②	内部	10月	30	試験・課題	2月
	成人看護学 I (回復期・リハビリテーション看護)	1	12	専任教員	内部	12月	40		
			4	脳卒中リハ看護認定看護師	外部	1月	15	試験	
			4	病院看護師②	外部	1月	15	試験	
			4	皮膚・排泄ケア認定看護師	外部	1月	15	試験	2月
			2	理学療法士	外部	1月	10	試験	2月
			2	作業療法士	外部	2月			
			2	言語聴覚士	外部	2月	5	出席/レポート	2月
老年看護学	老年看護学総論	1	30	専任教員	内部	6月	100	試験	2月
小児看護学	小児看護学総論	1	30	専任教員	内部	9月	100	試験	3月
母性看護学	母性看護学総論	1	12	専任教員	内部	10月	80	試験	1月
			3	男女共同参画審議会委員	外部	1月	20	試験レポート	1月
臨地実習	基礎看護学実習 I	1	45	専任教員	内部	9月	100	実習評価	10月
	基礎看護学実習 II	2	90	専任教員	内部	12月	100	実習評価	12月
	地域看護実習	2	90	専任教員	内部	7月	100	実習評価	7月
	<1年次計>	20	660						

総合計		
基礎分野	6単位	135時間
専門基礎分野	14単位	323時間
専門分野	20単位	660時間
<1年次計>	40単位	1118時間
行事・教科外活動+学修支援時間		81+40=121時間
<1年次計>		1239時間

基 硎 分 野

授業科目	国語（文章表現）	講師	大学教員		
開講時期	1年次	単位数	2単位	時間数	30時間

【目標】

- ・看護を学修していく上で基盤となる「国語」の力として、読む・分析する・表現する・論理的・要約する・伝達するなどの技術や方法を発展させ、それを支える知識や視座を深める。

【内容】

1. 「言葉」とは
2. 論理的思考力
3. 論理と理解
4. 読解の重層構造
5. 草稿テクストについて
6. 言語表現力について
7. 文章表現の考察

【使用テキスト】

- ・配布資料
- ・その他、授業内で指示する

【評価方法】

- ・終講筆記試験（論述試験）

授業科目	ICT と情報モラル	講師	専任教員 2 時間 大学講師 28 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

1. 「情報とはなにか」を理解し、「いかし方」と「まもり方」を身につける。
 2. ICT を活用したコミュニケーションを理解し、看護の実践にいかす方法を身につける。
-

【単元】

- ・ ICT オリエンテーション（担当：専任教員 2 時間）

【内容】

1. 学修における私用携帯通信機器について
 2. 学内 Wi-Fi の活用
 3. 学修支援システムの活用
 4. デジタル教科書の活用
 5. 看護教育動画サイトの活用
 6. 学習活動支援ソフトウェアの活用
-

【単元】

- ICT と情報モラル（担当：大学講師 28 時間）

【内容】（情報科学室等にてパソコン等使用での演習含む）

1. Microsoft365 の活用について
2. Word を活用したレポート作成
3. コンピューターリテラシーとセキュリティー
4. ソーシャルメディアリテラシー
5. 情報の認知と意思決定
6. 情報化社会で求められること
7. 医療情報システムと教育用電子カルテの活用
8. 医療情報の利用と倫理
9. 患者の権利と情報
10. 個人情報の保護
11. PowerPoint を活用したプレゼンテーション技術

【使用テキスト】

- ・ 看護情報学（医学書院）

【評価方法】

- ・ 終講筆記試験

授業科目	心理学	講師	公認心理師		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

- ・看護者として対人援助に携わる際必要となる人間の行動の基礎に関する基本的知識を概観し、看護者として「人間」に対する関心と理解を深める。

【内容】

1. 心理学とは
2. 感覚と知覚
3. 記憶
4. 思考・言語・知能
5. 学習
6. 感情と動機づけ
7. 性格とパーソナリティ
8. 集団の心理
9. 発達
10. 心理 臨床
11. 医療・看護と心理

【使用テキスト】

- ・心理学（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	生物学	講師	大学教員
開講時期	1年次	単位数	1単位 時間数 30時間

【目標】

- ・「生物」としての人体と「人」として生きている人間をつなげ人間の理解を深める。

【内容】

1. 生物学入門 人間・動物はどんな生き物？
2. 消化と吸收
3. 細胞
4. 筋肉と神経
5. 自律神経とホルモン
6. 人体のしくみ
7. 脳のはたらき
8. 遺伝子とDNA－1－
9. 遺伝子とDNA－2－
10. 遺伝子と染色体
11. 減数分裂のしくみ
12. ヒトの発生
13. 生物と環境
14. 人間と環境
15. 人類の未来と医療の問題

【使用テキスト】

- ・生物学（医学書院）
- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

【評価方法】

- ・レポート

授業科目	生命倫理	講師	緩和ケア担当医師		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間

【目標】

- ・現代社会における生命倫理の諸問題を生命の尊厳や人間の尊厳という根本的な議論から理解し、医療現場の倫理的な問題に気づくことができる感性（倫理的感性）を高める。
- ・対象者の尊厳や人権を守り、多様な価値観を尊重した行動をとることができる力を養う。

【内容】

1. 生命倫理とは
 - 1) 生命倫理の原則
 - 2) 健康と病い、人間の尊厳、ケアの倫理
2. 自己決定権をめぐる問題
 - 1) 患者の権利とインフォームド・コンセント
 - 2) 生命の尊厳と生命の質
 - 3) 医療資源の配分
3. 生の始まりをめぐる倫理問題
 - 1) 人工妊娠中絶をめぐる議論 生命の尊厳と女性の自己決定権
 - 2) 出生前診断、優性思想
 - 3) 障害新生児の治療停止
4. エンハンスメントと優生学
 - 1) 医療技術とエンハンスメント
 - 2) 遺伝子操作と優生学
5. 生の終わりをめぐる倫理問題
 - 1) 安楽死・尊厳死
 - 2) 脳死と臓器移植

【使用テキスト】

- ・命は誰のものか 増補改訂版 香川千晶著（ディスカヴァー携書）

【評価方法】

- ・レポート

專 門 基 礎 分 野

授業科目	解剖生理・疾病論Ⅰ (総論、解剖見学、呼吸器系)	講師	校長(病院医師)	6時間
			大学教員	6時間
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数 30時間

【目標】

1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
2. 解剖見学においては、解剖生理学の知識を日常生活行動と関連づけ看護の根拠とする。
3. 系統別疾患の病態、診断(検査)、治療について理解する。

【単元】解剖生理学総論(担当:校長(病院医師) 6時間)

【内容】

- 1) 人体の構造と機能を学ぶために
 - (1) 解剖学と生理学の歴史
- 2) 人体とは
- 3) 人体の素材(細胞の構造と機能)
 - (1) 細胞の構造
 - (2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成
 - (3) 細胞膜の構造と機能
 - (4) 細胞の増殖と染色体
 - (5) 分化した細胞がつくる組織
- 4) 構造と機能からみた人体
 - (1) 構造からみた人体
 - (2) 機能からみた人体
 - (3) 体液とホメオスタシス

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学(医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】解剖見学(担当:慈恵医大解剖学教室 6時間)

【内容】

- 1) 立体的な人体
- 2) 各臓器のつながり
- 3) 臓器の質感
- 4) 本物の人体を通してしか学べない体験
- 5) 看護技術の根拠となる解剖学

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

【評価方法】

- ・出席状況とレポート

【単元】呼吸器系 解剖生理 （担当：病院医師 8時間）

【内容】

- 1) 呼吸器の構造
 - (1) 上気道・下気道・肺・胸膜・縦隔
- 2) 呼吸器の機能
 - (1) 内・外呼吸 呼吸運動・呼気量
 - (2) ガス交換・肺の循環と血流
 - (3) 呼吸運動の調節

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】呼吸器系 疾病論 （担当：医師 10時間）

【内容】

- 1) 呼吸器系の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 炎症性疾患（気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎）
 - (2) 気管支喘息
 - (3) 慢性閉塞性肺疾患
 - (4) 肺循環障害（肺高血圧、肺塞栓症）
 - (5) 肺結核
 - (6) 気胸
 - (7) 腫瘍（肺癌、中皮腫）

【使用テキスト】

- ・成人看護学〈呼吸器〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	解剖生理・疾病論Ⅱ (循環器系・皮膚)	講師	病院医師① 12時間 病院医師② 12時間 病院医師③ 6時間
開講時期	1年次	単位数	1単位 時間数 30時間

【目標】

1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。

【単元】循環器系 解剖生理（担当：病院医師① 12時間）

【内容】

- 1) 心臓の構造と機能
 - (1) 心臓の構造
 - (2) 刺激伝導系
 - (3) 心機能の調節
- 2) 血管系の構造と機能
 - (1) 動脈・静脈・毛細血管（門脈系・脳循環を含む）
 - (2) 血圧と血圧調整
 - (3) 肺循環と体循環、冠循環
 - (4) 末梢循環と調節

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】循環器系 疾病論（担当：病院医師② 12時間）

【内容】

- 1) 心臓の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 先天性心疾患（心房中隔欠損症等）
 - (2) 虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群）
 - (3) 心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症）
 - (4) 心不全（急性心不全、慢性心不全）
 - (5) 心タンポナーゼ
 - (6) 不整脈（上室性頻脈性不整脈等）
 - (7) 炎症性疾患（心筋炎等）
 - (8) 弁膜症（大動脈弁疾患）
- 2) 血管系の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 大動脈瘤、大動脈解離

- (2) 閉塞性動脈硬化症
 - (3) 挫滅症候群
 - (4) 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症
- 3) 血圧異常の病態、診断（検査）、治療
- (1) 動脈硬化症
 - (2) 本態性高血圧
 - (3) 二次性高血圧
 - (4) 起立性低血圧
- 4) ショックの病態、診断（検査）、治療
- (1) 心原性ショック
 - (2) 出血性ショック
 - (3) 血流分布異常性ショック

【使用テキスト】

- ・成人看護学〈循環器〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】皮膚 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師③ 6時間）

【内容】

- 1) 皮膚の解剖生理
 - (1) 皮膚の構造と機能
 - (2) 体性感覚（刺激と感覚受容、表在感覚、深部感覚）
- 2) 皮膚の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 湿疹、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎
 - (2) 接触性皮膚炎、蕁麻疹
 - (3) 帯状疱疹
 - (4) 疥癬
 - (5) 熱傷

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈皮膚〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	解剖生理・疾病論Ⅲ (骨・筋系、眼)	講師	病院医師① 24時間 病院医師② 6時間
開講時期	1年次	単位数	1単位 時間数 30時間

【目標】

1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。

【単元】骨・筋系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師① 24時間）

【内容】

- 1) 骨の構造と機能
 - (1) 骨格とはどのようなものか
 - (2) 全身の骨の種類
 - (3) 軟骨
- 2) 骨格筋の構造と機能
 - (1) 骨格筋
 - (2) 筋収縮の機講
 - (3) 全身の筋の種類
- 3) 関節の構造
 - (1) 関節の構造と種類
- 4) 骨・関節の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 骨折、脱臼、捻挫
 - (2) 骨粗鬆症
 - (3) 腫瘍（骨肉腫）
 - (4) 変形性関節症
 - (5) 腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症）
 - (6) 炎症性疾患（骨・骨髓炎、関節炎）
 - (7) 脊髄損傷
- 5) 筋肉・神経筋接合部の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 筋ジストロフィー
 - (2) 重症筋無力症
- 6) 活動や行動が制限されることにより発生する状態
 - (1) 関節拘縮

【使用テキスト】

- ・ 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・ 成人看護学〈運動器〉（医学書院）

【評価方法】

- ・ 終講筆記試験

【単元】眼 解剖生理・疾病論 (担当: 病院医師② 6時間)

【内容】

- 1) 眼の解剖生理
 - (1) 眼球と眼球付属物の構造
 - (2) 視力と視野
 - (3) 明暗覚と色覚
 - (4) 眼球に関する反射
 - (5) 視覚の伝道路
 - (6) 眼球運動
- 2) 眼の疾患の病態、診断(検査)、治療
 - (1) 白内障、緑内障
 - (2) 網膜剥離、網膜症

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学(医学書院)
- ・成人看護学〈眼〉(医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	解剖生理・疾病論IV (消化器系、口腔)	講師	病院医師① 26 時間 病院医師② 4 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。

【単元】消化器系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師① 26 時間）

【内容】

- 1) 噉下の機能
 - (1) 食道の構造と機能
- 2) 消化と吸收
 - (1) 胃の構造と機能
 - (2) 小腸の構造と機能
 - (3) 大腸の構造と機能
 - (4) 肝臓と胆道の構造と機能
 - (5) 脾臓の構造と機能
 - (6) 腹膜
 - (7) 消化管運動と反射
 - (8) 三大栄養素の消化と吸收・消化管ホルモン
- 3) 上部消化管の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 炎症性疾患（逆流性食道炎、急性胃炎等）
 - (2) 潰瘍性疾患（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）
 - (3) 腫瘍（食道癌、胃癌）
- 4) 下部消化管の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）
 - (2) イレウス
 - (3) 腫瘍（大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌）
 - (4) 排便障害（便秘、下痢）
- 5) 肝臓・胆嚢・脾臓の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 炎症性疾患（肝炎、胆嚢炎、脾炎）
 - (2) 肝硬変
 - (3) 腫瘍（肝癌、胆嚢癌、胆管癌、脾臓癌）
 - (4) 脂肪肝、アルコール性肝炎
 - (5) 胆石症
- 6) 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 鼠経ヘルニア

- (2) 腹膜炎
 - (3) 横隔膜ヘルニア 吃逆
- 7) 乳腺の疾患の病態、診断（検査）、治療
- (1) 乳癌

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈消化器〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】口腔 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師② 4時間）

【内容】

- 1) 齒・口腔・唾液腺の構造と機能
 - (1) 咀嚼と嚥下
- 2) 口腔の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 炎症性疾患（う歯、歯周病）
 - (2) 腫瘍（舌癌）

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈歯科口腔〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	解剖生理・疾病論V (腎系、泌尿器系、女性生殖器系)	講師	病院医師① 14時間 病院医師② 8時間 医師 8時間
開講時期	1年次	単位数	1単位 時間数 30時間

【目標】

1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。

【単元】腎系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師① 14時間）

【内容】

- 1) 尿の生成
 - (1) 腎臓の機能
 - (2) クリアランスと糸球体濾過量
 - (3) 再吸収と分泌
- 2) 体液とは、体液量の調節
 - (1) 抗利尿ホルモンの作用
 - (2) レニン・アンジオテンシンーアルドステロン系
 - (3) 電解質バランス
 - (4) 酸塩基平衡
 - (5) 浸透圧調節
- 3) 腎系の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 腎炎、慢性腎臓病
 - (2) 腎不全
 - (3) 腎の損傷・結石・腫瘍、先天異常
- 4) 体液調節の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 水・電解質の異常

脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症
 - (2) 酸塩基平衡の異常

アシドーシス、アルカローシス

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈腎・泌尿器〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】泌尿器系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師② 8時間）

【内容】

- 1) 排泄の機能

- (1) 排尿
 - ①尿管・膀胱の構造と機能 ②尿道の構造と機能 ③排尿反射
- 2) 男性生殖器系の構造と機能
 - ①精巣と精路 ②精子の形成 ③精巣上体、精管、精囊前立腺、陰茎
- 3) 泌尿器系(排泄機能)の病態、診断(検査)、治療
 - (1) 炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎)
 - (2) 腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌)
 - (3) 腎・尿路結石
 - (4) 排尿障害(過活動膀胱、腹圧性尿失禁等、夜尿症)
- 4) 男性生殖器系の疾患の病態、診断(検査)、治療
 - (1) 男性生殖器の疾患
前立腺炎、前立腺肥大症、前立腺癌

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学(医学書院)
- ・成人看護学〈腎・泌尿器〉(医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】女性生殖器系 解剖生理・疾病論 (担当: 医師 8時間)

【内容】

- 1) 女性生殖器系の構造と機能
 - (1) 卵巣、卵管、子宮、膣
 - (2) 外陰部と会陰
 - (3) 性周期とホルモン
- 2) 女性生殖器系の疾患の病態、診断(検査)、治療
 - (1) 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫
 - (2) 乳腺の疾患(乳腺炎、乳腺症)
 - (3) 腫瘍(子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌)
 - (4) 生殖機能障害(月経異常、更年期障害)

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学(医学書院)
- ・成人看護学〈女性生殖器〉(医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	解剖生理・疾病論VI (脳神経、耳鼻咽喉)	講師	病院医師① 22 時間 病院医師② 8 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。

【単元】脳神経系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師① 22 時間）

【内容】

- 1) 神経細胞と神経組織
 - (1) 神経細胞と情報伝達
 - (2) 神経膠細胞
- 2) 中枢神経系の構造と機能
 - (1) 大脳
 - (2) 視床、視床下部
 - (3) 中脳、橋、延髄
 - (4) 小脳
 - (5) 脊髄
 - (6) 中枢神経系を保護する組織
 - (7) 姿勢反射
 - (8) 髓膜と脳室
 - (9) 脳脊髄液の循環
 - (10) 感覚と運動の伝道路
- 3) 末梢神経系
 - (1) 脳神経系
 - (2) 脊髄神経と神経叢
 - (3) 体性神経系
 - (4) 自律神経系
- 4) 中枢神経系の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 脳血管障害（脳内出血、くも膜下出血脳梗塞、もやもや病）
 - (2) 頭蓋内圧亢進症
 - (3) 頭部外傷
 - (4) 腫瘍（脳腫瘍）
 - (5) 変性疾患（パーキンソン病、ALS）
 - (6) 脱髓疾患（多発性硬化症）
 - (7) 感染症（脳炎、髄膜炎）
 - (8) 機能性疾患（てんかん）

5) 末梢神経系の疾患の病態、診断（検査）、治療

- (1) ギランバレー症候群
- (2) 圧迫性神経障害、顔面神経麻痺（ベル麻痺）

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈脳神経〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】耳鼻咽喉系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師② 8 時間）

【内容】

1) 聴覚と平衡感覚

- (1) 耳の構造（外耳・中耳・内耳の構造）
- (2) 平衡器官の構造と平衡感覚
- (3) 聴力

2) 嗅覚と味覚

- (1) 嗅覚受容器の構造と嗅覚（臭上皮）
- (2) 味覚受容器の構造と味覚（味蕾）

4) 聴覚・臭覚・味覚障害の病態、診断（検査）、治療

- (1) 難聴、メニエール病
- (2) 臭覚、味覚障害
- (3) 花粉症（アレルギー性鼻炎）

2) 咽頭の疾患の病態、診断（検査）、治療

- (1) 炎症性疾患（咽頭炎、扁桃炎）
- (2) 腫瘍（咽頭癌）

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈耳鼻咽喉〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	解剖生理・疾病論VII (代謝・内分泌系、血液・造血器系、免疫・感染症)	講師	病院医師① 病院医師② 看護師	12時間 12時間 6時間
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数 30時間

【目標】

1. 人体の正常な機能と構造を系統的に理解する。
2. 系統別疾患の病態、診断（検査）、治療について理解する。

【単元】代謝・内分泌系 解剖生理・疾病論 （担当：病院医師① 12 (16) 時間）

【内容】

- 1) 代謝
 - (1) 基礎代謝量
 - (2) 糖質・脂質・タンパク質・核酸の代謝
 - (3) ビタミン・ミネラル
- 2) 内分泌
 - (1) ホルモンの種類と作用機序
 - (2) ホルモンの調節
 - (3) フィードバック機構
 - (4) 内分泌器官の構造とホルモンの機能
視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、副甲状腺、胰島、副腎皮質、副腎髓質
- 3) 代謝異常の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) メタボリックシンドローム、肥満症
 - (2) 糖尿病
 - (3) 脂質異常症
 - (4) 高尿酸血症、痛風
 - (5) ビタミン欠乏症
- 4) 内分泌系の疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 間脳、下垂体疾患
 - (2) 甲状腺疾患（亢進症、低下症、甲状腺炎）
 - (3) 副甲状腺（上皮小体）疾患
 - (4) 副腎皮質・髓質疾患
 - (5) 腫瘍（下垂体腫瘍・甲状腺癌）

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈内分泌・代謝〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】 血液・造血器系 解剖生理・疾病論 (担当: 病院医師② 12時間)

【内容】

- 1) 血液の成分と機能
 - (1) 血液の組成と造血のしくみ
- 2) 止血機構
 - (1) 凝固と纖維素溶解
- 3) 血液型
 - (1) 輸血に関する検査
 - (2) 不適合輸血とは
- 4) 血液造血器の疾患の病態、診断(検査)、治療
 - (1) 貧血(鉄欠乏性貧血、骨髄異型性症候群、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、二次性貧血)
 - (2) 出血性疾患(TTP, ITP, DIC)
 - (3) 白血球減少症
 - (4) 造血器の腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学(医学書院)
- ・成人看護学〈血液・造血器〉(医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】 免疫系・感染症 解剖生理・疾病論 (担当: 看護師 6時間)

【内容】

- 1) 非特異的生体防御機構
 - (1) 生体表面や粘膜での防御機構
 - (2) 食細胞とサイトカイン
 - (3) 胸腺・脾臓・リンパ節
- 2) 特異的生体防御反応
 - (1) 免疫系の細胞
 - (2) 抗原と抗体
 - (3) 液性免疫
 - (4) 細胞性免疫
 - (5) 補体
 - (6) アレルギー反応
 - (7) 組織適合性抗原(HLA)
- 3) 免疫低下に関連する疾患の病態、診断(検査)、治療

- (1) 敗血症と敗血症性ショック
- (2) 免疫不全症と感染、ヒト免疫不全ウィルス（HIV）
- 4) 自己免疫疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) 全身性エリテマトーデス
 - (2) 関節リュウマチ
 - (3) シューゲレン症候群
- 5) アレルギー疾患の病態、診断（検査）、治療
 - (1) アナフィラキシーショック

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
- ・成人看護学〈アレルギー・膠原病・感染症〉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	看護につながる解剖生理 I (呼吸器系、循環器系)	講師	専任教員（呼吸器系）8時間 外部講師（循環器系）7時間		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間

【目標】

1. 看護学の観点から人体の構造と機能について系統立てて理解する。
2. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うため、生命の根幹をなす呼吸器系・循環器系の構造と機能について理解する。

【内容】（グループワーク・演習含む）

1. 呼吸器系（担当：専任教員 8時間）

- 1) 肺の位置と構造
 - (1) 胸腔内と肺の位置
 - (2) 肺のつくり
- 2) 呼吸器の機能
 - (1) 呼吸の仕事とガス交換
 - (2) 内呼吸と外呼吸
 - (3) 呼吸のメカニズムと換気の仕組み
 - (4) 呼吸のコントロール

2. 循環器系（担当：外部講師 7時間）

- 1) 心臓の位置と構造
 - (1) 胸腔内と心臓の位置
 - (2) 心臓のつくり
 - (3) 心臓の興奮
- 2) 心臓の機能
 - (1) 心臓の仕事
 - (2) 心周期と心音
 - (3) 体循環と肺循環
- 3) 血管系の構造と機能
 - (1) 動脈と静脈
 - (2) 最高血圧と最低血圧
 - (3) 毛細血管とリンパ管

【使用テキスト】

- ・解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）
- ・成人看護学＜呼吸器＞
- ・成人看護学＜循環器＞
- ・イラストでまなぶ生理学（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	看護につながる解剖生理Ⅱ (運動器系、消化器系)	講師	専任教員①(運動器系) 7時間 専任教員②(消化器系) 8時間
開講時期	1年次	単位数	1単位

【目標】

1. 看護学の観点から人体の構造と機能について系統立てて理解する。
2. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うため、運動器系・消化器系の構造と機能について理解する。

【内容】 (グループワーク・演習含む)

1. 運動器系の解剖生理 (担当: 専任教員① 7時間)

1) 位置と構造と機能

- (1) 骨格
- (2) 関節
- (3) 骨格筋

2) 運動の仕組み

- (1) 身体の動きの原則
- (2) 体幹
- (3) 上肢
- (4) 下肢

2. 消化器系の解剖生理 (担当: 専任教員② 8時間)

1) 位置と構造と機能

- (1) 食道、胃、小腸、大腸
- (2) 肝臓、胆道、脾臓

2) 消化と吸収、排泄の仕組み

【使用テキスト】

- ・解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)
- ・成人看護学<運動器>
- ・成人看護学<消化器>
- ・イラストでまなぶ生理学 (医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	生化学	講師	臨床検査技師		
開講時期	1 年次	単位数	2 単位	時間数	30 時間

【目標】

- ・人体の構成成分である化学物質の分布、性状、代謝機能について理解する。

【内容】

1. 生体を構成する物質とその代謝
 - 1) 生体を構成する元素・分子
 - 2) 細胞の構造と機能
2. 代謝の基礎と酵素・補酵素
 - 1) 三大栄養素の代謝の概要
 - 2) 酵素
 - 3) ビタミン
3. 糖質代謝
4. 脂質代謝
5. タンパク質代謝
 - 1) タンパク質の消化と吸収
 - 2) アミノ酸の吸収・分解
6. ポルフィリン代謝と異物代謝
 - 1) ポルフィリン
 - 2) 生体異物代謝
 - 3) 活性酸素とその除去反応
7. 遺伝情報とその発現
8. 細胞のシグナル伝達とがん
 - 1) シグナル伝達
 - 2) 内分泌の生化学的基盤
 - 3) がん

【使用テキスト】

- ・人体の構造と機能 [2] 生化学（医学書院）

9. 臨床検査（担当：病院臨床検査技師 4 時間）
 - 1) 総論（一般検査・血液検査・生化学検査）
 - 2) 免疫学（細菌検査）
 - 3) 疾患と検査値

【使用テキスト】

- ・検査値早わかりガイド 第3版（サイオ出版）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	微生物学	講師	臨床検査技師		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間

【目標】

- ・微生物の人体に及ぼす影響及びその対応について理解する。

【内容】

1. 微生物学の基礎

- 1) 微生物と微生物学
- 2) 細菌の性質
- 3) 真菌の性質
- 4) 原虫の性質
- 5) ウィルスの性質

2. おもな病原微生物

- 1) 病原細菌と細菌感染症
- 2) 病原真菌と真菌感染症
- 3) 病原原虫と原虫感染症
- 4) 病原ウィルスとウィルス感染症

【使用テキスト】

- ・疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学 (医学書院)

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	感染管理論	講師	感染管理認定看護師 15 時間 (専任教員 演習 5 時間)		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
【目標】					
1. 感染成立の条件および院内感染（医療関連感染）の基本を知り、医療者が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解する。					
2. 感染防止の技術について学び、原理原則を理解し正しく実践できる。					
【内容】					
1. 感染症概論（担当：感染管理認定看護師）					
1) 感染と感染症					
2) 感染成立の条件					
3) 院内感染の防止					
4) 感染症の現状と対策					
(1) 感染症の変遷					
(2) 感染症の現状と問題点					
(3) 感染症への対策					
2. 感染とその防御（担当：感染管理認定看護師）					
1) 微生物感染の機構					
(1) 細菌感染					
(2) 真菌感染					
(3) 原虫感染					
(4) ウィルス感染の機構					
2) 感染に対する生体防御機構					
3) 感染源・感染経路から見た感染症					
4) 感染症の検査と診断					
5) 感染症の治療					
3. 院内感染の対応と予防（担当：感染管理認定看護師）					
1) 標準予防策					
2) 感染経路別予防策					
3) 手指衛生のタイミング					
4) 個人防護具の選択、着脱					
5) 感染性廃棄物の取り扱い					
4. 感染防止の技術 ①（演習）（担当：感染管理認定看護師・専任教員）					
1) 標準予防策に基づく手洗い					

- 2) 手指衛生のタイミング
- 3) 個人防護具の選択、着脱
- 4) 感染性廃棄物の取り扱い

5. 洗浄・消毒・滅菌・無菌操作の基礎知識（担当：感染管理認定看護師）

6. 無菌操作の基礎知識 ②（演習）（担当：感染管理認定看護師）
- 1) 滅菌物の取り扱い
 - 2) 鑷子・滅菌ガーゼ・綿球の取り扱い
 - 3) 滅菌手袋の着脱

7. 感染防止の技術 ③（演習）（（担当：感染管理認定看護師・専任教員）

- 1) 援助場面に応じた感染防止の技術
- 2) 医療器材の洗浄・消毒

【使用テキスト】

- ・疾病の成り立ちと回復の促進 [4] 微生物学（医学書院）
- ・系統看護学講座 基礎看護技術 I

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	病理学	講師	病院医師		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間

【目標】

- ・病気の成り立ちや、身体内での病的変化について理解する。

【内容】

1. 病理学とは
 - 1) 病気の原因
2. 細胞の障害
 - 1) 萎縮、変性、肥大
 - 2) 壊死とアポトーシス
 - 3) 創傷と治癒
3. 生体の障害
 - 1) 循環器障害、臓器不全
 - 2) 炎症、損傷
 - 3) 免疫異常、アレルギー
 - 4) 内分泌、代謝障害
 - 5) 廃用症候群・老年症候群
 - 6) 遺伝子異常と先天異常
 - 7) 腫瘍
 - 8) 中毒、放射線障害

【使用テキスト】

- ・疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

専門分野

授業科目	看護学概論	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

1. 看護の基本となる概念を理解する。
2. 看護の対象である人間を総合的に捉え、生活者としての意味を理解する。
3. 健康の概念について理解する。
4. 保健医療福祉システムを理解し、チームにおける看護師の役割を理解する。
5. 看護の提供について理解する。
6. 看護倫理について考え、看護職者に必要な態度を養う。

【内容】

1. 看護とは
 - 1) 看護の変遷
 - 2) 看護の定義
 - 3) 看護の役割と機能
2. 看護の対象の理解（※レポート）
 - 1) 人間（個人）という存在
 - 2) 生活者としての人間
 - 3) 健康の捉え方（社会の変遷と健康観の変化）
3. 看護における倫理（※レポート）
 - 1) 現代社会における倫理と歴史的経緯
 - 2) 看護実践における倫理問題
 - 3) 看護者の倫理綱領・倫理原則とケアの倫理
4. 広がる看護の活動領域
5. 看護提供のしくみ（※5.6範囲グループワーク・発表）
 - 1) 看護サービス提供のしくみと管理
 - 2) 看護をめぐる制度と政策
6. 看護の提供者（同上）
 - 1) 職業としての看護
 - 2) 看護職の資格と養成
 - 3) 看護職者の就業と継続教育
 - 4) 看護職の養成制度

【使用テキスト】

- ・系統別看護学講座「看護学概論」（医学書院）
- ・看護覚え書き（現代社）
- ・よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）
- ・看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、課題学習、受講姿勢

授業科目	看護過程展開の技術	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。
2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクションという看護過程の基盤となる考え方を理解する。
3. アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価という看護過程について、その基本的な考え方と実際を理解する。
4. 事例をもとにヘンダーソンの看護論に沿った展開方法を理解し活用できる。
5. 看護記録の目的と留意点、その構成について理解する。

【内容】

1. 看護記録
 - 1) 看護記録とは、
 - 2) 記録・管理における留意点
 - 3) 看護記録の構成
2. 看護過程とは
 - 1) 看護過程の5つの構成要素
 - 2) 5つの構成要素の関係性
 - 3) 看護過程を用いる利点
3. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方
 - 1) 問題解決過程
 - 2) クリティカルシンキング
 - 3) リフレクション
4. 看護過程の各段階
 - 1) アセスメント(情報収集と分析)、関連図
 - 2) 看護問題の明確化(看護診断)
 - 3) 看護計画
 - 4) 実施
 - 5) 評価
5. 事例をもとに看護過程を展開(ヘンダーソンの看護論)
 - 1) 事例展開演習

【使用テキスト】

- ・看護の基本となるもの
- ・基礎看護技術Ⅰ(医学書院)
- ・第4版 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践(ヌーヴェルヒロカワ)

【評価方法】

- ・事例展開、受講姿勢、ループリック

授業科目	共通基本技術 I (コミュニケーション・環境調整・学習支援)	講師	専任教員① 12 時間 専任教員② 10 時間 専任教員③ 8 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間

【目標】

1. コミュニケーションの重要性やコミュニケーションの方法を理解し、活用する。
2. 生活環境が及ぼす影響を理解し、患者にとって適切な環境を整えることができる。
3. 看護における教育的役割や健康教育の目的、健康教育・指導の過程を理解し、それらを実施、評価する。

【単元】

- ・コミュニケーション技術（担当：専任教員① 12 時間）

【内容】

1. コミュニケーションの意義と目的
 - 1) コミュニケーションとは
 - 2) 看護・医療におけるコミュニケーション
2. コミュニケーションの構成要素と成立過程
 - 1) コミュニケーション手段
 - 2) 構成要素と成立過程
 - 3) ミスコミュニケーション
 - 4) 看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力
 - 5) プロセスレコード

演習：身近な人との関わりの場面（ロールプレイング）（4 時間を含む）
3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本
 - 1) 接近的コミュニケーションの原理
 - 2) 接近的行動の前提となる基本的な態度
 - 3) 接近的行動と非接近的行動
 - 4) 接近的コミュニケーションを成立させる技術
4. 効果的なコミュニケーションの実際
 - 1) 傾聴の技術
 - 2) 情報収集の技術
 - 3) 説明の技術
 - 4) アサーティブネス
5. コミュニケーション障害への対応
 - 1) コミュニケーションに障害がある人の特徴
 - 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能
 - 3) コミュニケーション障害がある人への対応

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術 I (医学書院)
- ・人間関係論 (医学書院)
- ・看護がみえる vol. 1 基礎看護技術
- ・トラベルビー 人間対人間の看護 (医学書院)

【評価方法】

- ・受講姿勢、終講筆記試験、演習、課題

【単元】

- ・環境調整の技術 (担当 : 専任教員② 10 時間)

【内容】

基礎看護技術の導入

- 1) 看護技術とは
- 2) 看護技術の基本原則
- 3) 看護技術の特徴

1. 環境とは

- 1) 人間の生活と環境
- 2) 環境調整の意義
- 3) 病人の生活環境の条件
- 4) 快適な病室の環境条件
- 5) 病室環境のアセスメント

2. 必要な援助、看護師の役割、援助の実際

- 1) ベッド周りの環境整備に関するトラブル
- 2) 病床環境に対する看護の役割

3. 病床の整備

- 1) ベッドの種類と構造
- 2) リネンの種類と取り扱い
- 3) 基本的なベッドメイキング
- 4) 臥床患者のリネン交換

4. 演習 (8 時間を含む)

- 1) 快適・安全な療養環境の整備
- 2) 基本的なベッドメイキング
- 3) 臥床患者のリネン交換

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術 II (医学書院)
- ・看護がみえる vol. 1 基礎看護技術

【評価方法】

- ・受講姿勢、終講筆記試験、演習、レポート

【単元】

- ・学習支援（担当：専任教員③ 8時間）

【内容】

1. 看護における学習支援とは
 - 1) 看護の中にある学習支援
 - 2) 「教育・指導」から「学習支援」へ
2. 学習支援の基本となるもの
 - 1) 対象者の学習ニーズへの対応
 - 2) 健康教育の方向性
3. 学習支援の対象者と領域
 - 1) 学習支援の対象者
 - 2) 学習支援の場
4. 学習支援の進め方
 - 1) 学習支援の内容と方法の決定
 - 2) 学習支援におけるアプローチの方法
 - 3) 学習支援のプロセスに影響を及ぼす要因
5. 学習支援の評価
6. 演習（6時間を含む）
 - 1) 個人を対象とした生活指導の実施と評価（ロールプレイング）

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術 I（医学書院）

【評価方法】

- ・受講姿勢、演習、提出物

授業科目	共通基本技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

1. ヘルスアセスメントの必要性と目的が理解できる。
2. 観察の重要性と方法を理解する。
3. バイタルサインの重要性と測定の意義を理解する。
4. バイタルサイン測定と観察に必要な基礎知識を理解する。
5. バイタルサインに影響する諸因子を調整し、正確に測定し、値を評価する。
6. 観察・報告の意義と方法について理解する。

【単元】

- ・ フィジカルアセスメント

【内容】

1. ヘルスアセスメントとは
 - 1) ヘルスアセスメントの意義と目的
 - (1) フィジカルアセスメント
 - (2) イグザミネーション
 - 2) 観察とは
 - 3) 全体の概観
 - (1) フィジカルアセスメントに必要な技術 問診、視診、触診、聴診、打診
 - (2) 全身状態・全体印象の把握
 - 4) 看護過程における情報収集
 - 5) フィジカルアセスメントの重要性（事例）
2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント
 - 1) 問診（面接）の技術
 - 2) 健康歴聴取の目的と実際
 - 3) セルフケア能力のアセスメント
3. バイタルサインとは
 - 1) バイタルサイン測定の意義
4. 体温維持に関する基礎知識
 - 1) 体温の変動要因、正常と異常
 - 2) 体温の測定の実際とアセスメント
5. 脈拍に関する基礎知識
 - 1) 脈拍の変動要因、正常と異常
 - 2) 脈拍の測定の実際とアセスメント

6. 呼吸に関する基礎知識

- 1) 呼吸の変動要因、正常と異常
- 2) 呼吸の測定の実際とアセスメント
- 3) 呼吸音の聴診
- 4) 酸素飽和度について

7. 血圧に関する基礎知識

- 1) 血圧の変動要因、正常と異常
- 2) 血圧の測定の実際とアセスメント

8. 意識に関する基礎知識

- 1) 意識の観察の実際 ジャパンコーマスケール (JCS)・グラスゴーコーマスケール (GCS)

9. 演習（20 時間を含む）

- 1) バイタルサインの測定し、観察・アセスメントした内容を報告する
 - (1) 体温
 - (2) 脈拍
 - (3) 呼吸
 - (4) 血圧
 - (5) 酸素飽和度
 - (6) 問診
 - (7) 視診
 - (8) 触診
 - (9) 聴診
 - (10) 打診
- 2) 身体計測
 - (1) 身長
 - (2) 体重
 - (3) 胸囲
 - (4) 腹囲

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術 I （医学書院）
- ・看護がみえる vol. 1 基礎看護技術
- ・看護がみえる vol. 2 臨床看護技術
- ・看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント

【評価方法】

- ・受講姿勢、終講筆記試験、演習、レポート、パフォーマンス評価

授業科目	生活援助技術Ⅰ (活動休息・衣生活)	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

1. 活動と休息の意義と重要性を理解し、患者の活動および睡眠への適切な援助ができる。
2. 衣服のもつ意義、健康と衣生活の関連を理解し、患者にとって適切な衣服の選択と更衣の援助ができる。

【単元】

- ・活動休息の援助技術（22時間）

【内容】

1. 基本的活動の援助
 - 1) 活動の意義、活動制限による影響、廃用症候群、褥瘡
 - 2) 体位、基本肢位と良肢位
 - 3) 関節の運動・可動域、ボディメカニクス
 - 4) アセスメントの視点、活動への援助
2. 姿勢・体位の保持・移動の援助
 - 1) 転倒・転落、移送時のトラブル
 - 2) 姿勢・体位の保持、体位変換
 - 3) 移動・移送の援助時の用具（車椅子・ストレッチャー・担架・歩行介助用具）
3. 睡眠と休息の看護
 - 1) 休息の意義、安静・安静度とは
 - 2) 睡眠制御のメカニズム、睡眠の意義
 - 3) レム睡眠とノンレム睡眠・身体の生理的变化
 - 4) 睡眠障害の要因と種類・心身への影響
 - 5) 睡眠に関するアセスメントの留意点、休息・睡眠への援助
4. 演習（6時間を含む）
 - 1) 体位変換、安楽な体位
 - 2) 移動・移送（車椅子・ストレッチャー・担架・歩行介助用具）
5. パフォーマンス課題（6時間を含む）
 - 1) 片麻痺のある患者の車椅子への移乗と移送

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術

【評価方法】

- ・終講筆記試験、課題レポート、受講姿勢、パフォーマンス評価

【単元】

- ・衣生活の援助技術（8時間）

【内容】

1. 衣生活の意義
2. 健康と衣服
 - 1) 健康な衣生活の条件
 - 2) 被服気候
 - 3) 衣服選択への援助
3. 衣服着脱への援助
 - 1) 原則と注意事項
 - 2) 寝衣交換の実際（和式寝巻き・病衣・パジャマ）
 - 3) 寝衣交換の実際（輸液ラインが入っている場合・麻痺のある場合）
4. 演習（4時間を含む）
 - 1) 臥床患者の寝衣交換
 - 2) 点滴施行中の患者の寝衣交換

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術

【評価方法】

- ・終講筆記試験、課題レポート、受講姿勢

授業科目	生活援助技術Ⅱ (食生活・排泄)	講師	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

1. 食生活の意義と重要性を理解し、患者にとって適切な食事の援助ができる。
2. 排泄の意義と重要性を理解し、患者にとって適切な排泄の援助ができる。
3. 食事・排泄援助を必要とする対象への配慮が理解できる。

【単元】

- ・食生活の援助技術（12時間）

【内容】

1. 健康生活における食事の意義
 - 1) 身体的意義・精神的意義・社会的意義
 - 2) 現代の食生活の特徴
 - 3) 国民健康づくり
 - 4) 食事援助における看護師の役割
2. 食事援助に必要な基礎知識・アセスメント
 - 1) 食べるために必要な機能
 - 2) 食べるために必要な機能の評価
 - 3) 栄養状態のアセスメント
3. 食事援助の基本的な方法
 - 1) 食事援助場面（デモンストレーション）
 - 2) 食事援助の基本と方法
4. 健康障害のある患者の食事援助方法
 - 1) 健康障害（視覚障害・半身麻痺・臥床安静）のある患者の食事援助方法
 - 2) 摂食・嚥下訓練
5. 健康障害のある患者の食事援助方法 演習
 - 1) 視覚障害患者の食事介助
 - 2) 半身麻痺がある患者の食事介助
 - 3) 臥床安静患者の食事介助
6. 非経口的栄養摂取の援助方法
 - 1) 非経口的栄養法
 - 2) 経管栄養患者の援助（デモンストレーション）

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術

・看護がみえる vol. 2 臨床看護技術

【評価方法】

- ・終講筆記試験、課題レポート、受講姿勢

【単元】

- ・排泄の援助技術（18 時間）

【内容】

1. 排泄の意義
 - 1) 排泄の意義
 - 2) 排泄ケアにおける看護師の役割
2. 排尿・排便のメカニズム
 - 1) 観察とアセスメント
3. 自然排尿・排便の介助と実際
4. 便器・尿器挿入介助 演習
5. 排尿障害
 - 1) 尿失禁
 - 2) 頻尿
 - 3) 尿閉
6. 一時的導尿・持続的導尿
7. 導尿 演習
8. 排便障害
 - 1) 下痢
 - 2) 便秘
 - 3) 便失禁
 - 4) グリセリン浣腸・高圧浣腸
9. グリセリン浣腸 演習

【使用テキスト】

- ・基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・看護がみえる vol. 1 基礎看護技術
- ・看護がみえる vol. 2 臨床看護技術

【評価方法】

- ・終講筆記試験、課題レポート、受講姿勢

授業科目	生活援助技術Ⅲ (清潔の援助技術)	講師	専任教員
開講時期	1年次	単位数	1単位
時間数 30時間			
【目標】			
<p>1. 身体清潔の意義と重要性を理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。</p> <p>2. 患者に応じた清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの基本的な清潔援助が実施できる。</p>			
【内容】			
<p>1. 身体清潔の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生理的・心理的・社会的意義 2) 援助に必要な知識（皮膚・粘膜の構造と機能） 3) 入浴と生体の反応 <p>2. 健康障害時の清潔</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助の必要性 2) 疾病時における清潔の意義 3) 看護の目的 <p>3. 清潔援助の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全身清拭朝夕の洗面の方法 2) 陰部洗浄の方法 3) 朝夕の洗面の方法 4) 手浴・足浴の方法 5) 洗髪の方法 6) 入浴・シャワー浴の方法 7) 整容の方法（目・耳・鼻・爪切り・ひげそり） 8) 口腔ケアの方法 <p>4. 演習（18時間を含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臥床患者の全身清拭、口腔ケア 2) ケリーパッドを使用しての洗髪 3) 臥床患者の足浴、足浴バケツを使用しての足浴、シャボンラッピング 4) 臥床患者の手浴、座位で行う手浴 5) おむつを使用した陰部洗浄 <p>5. パフォーマンス課題（8時間を含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臥床患者の全身清拭 			

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
- ・看護がみえる Vol.1 基礎看護技術

【評価方法】

- ・終講筆記試験、課題レポート、受講姿勢、パフォーマンス評価

授業科目	臨床看護方法論	講師	専任教員①	10 時間
			専任教員②	4 時間
			専任教員③	10 時間
			専任教員④	6 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数 30 時間

【目標】

1. 健康障害の経過（健康レベル）の特徴及び各期における患者・家族のニーズを捉えて、各期の看護援助を考える。
2. 臨床判断の基礎知識を修得することができる。
3. 各主要症状の発生のメカニズムや検査、治療、看護について理解できる。
4. 履修した知識を活用し、看護の展開について理解できる。

【単元】

- ・健康障害をもつ対象の理解と看護展開（担当：専任教員① 4 時間）

【内容】

1. 健康障害をもつ対象と家族
 - 1) 健康の捉え方
 - 2) 看護の対象と家族
 - 3) 臨床での看護実践の視点（症状別、治療別、経過別、機能障害別）
 - 4) 健康障害（健康状態）の経過（分類、健康レベル）
2. 健康障害の経過に基づく看護　急性期における看護
 - 1) 急性期の特徴
 - 2) 急性期の患者のニーズ
 - 3) 急性期の患者への看護援助　*危機理論、危機モデル
3. 健康障害の経過に基づく看護　慢性期における看護
 - 1) 慢性期の特徴
 - 2) 慢性期の患者のニーズ
 - 3) 慢性期にある患者への看護援助
4. 健康障害の経過に基づく看護　回復期（リハビリテーション期）の看護
 - 1) 回復期（リハビリテーション期）の特徴
 - 2) 回復期（リハビリテーション期）の患者のニーズ
 - 3) 回復期（リハビリテーション期）の患者への看護援助　*I C F、障害受容の過程
5. 健康障害の経過に基づく看護　終末期の看護
 - 1) 終末期の特徴
 - 2) 終末期の患者のニーズ
 - 3) 終末期の患者への看護援助　*緩和ケア、全人的苦痛、死にゆく人の心理過程

【使用テキスト】

- ・臨床看護総論（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験
-

【単元】

- ・臨床判断の基礎知識（担当：専任教員① 6時間）

【内容】

1. 臨床判断能力とは
 - 1) 臨床判断能力（育成）が必要とされる背景
 - 2) 臨床判断能力とは
 - 3) 臨床判断のプロセス
2. 看護師のように考える
事例の「気づき」と「解釈」

【使用テキスト】

- ・臨床看護総論（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験
-

【単元】

- ・主要な症状を示す対象者の看護（20時間）

【内容】

1. 血圧低下・ショック（担当：専任教員② 4時間）
 - 1) 定義
 - 2) 原因、誘因、メカニズム
 - 3) 主な検査、治療
 - 4) 看護の展開
2. 発熱・脱水症状（担当：専任教員③ 6時間）
 - 1) 定義
 - 2) 原因、誘因、メカニズム
 - 3) 主な検査、治療
 - 4) 看護の展開

3. 浮腫・腹水症状 (担当: 専任教員③ 4 時間)

- 1) 定義
- 2) 原因、誘因、メカニズム
- 3) 主な検査、治療
- 4) 看護の展開

4. 疼痛症状 (担当: 専任教員④ 6 時間)

- 1) 定義
- 2) 原因、誘因、メカニズム
- 3) 主な検査、治療
- 4) 看護の展開

【使用テキスト】

- ・ 臨床看護総論 (医学書院)
- ・ 看護過程に沿った対症看護 (学研メディカル秀潤社)

【評価方法】

- ・ 終講筆記試験、事例課題

授業科目	臨床判断演習 I (主要な症状を示す対象者の看護)	講師	専任教員① 専任教員② 専任教員③	8 時間 8 時間 14 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数 30 時間

【目標】

1. 重要な情報を収集することができ、状況を知覚的に把握することができる。
2. 情報の優先順位を決定し、情報の意味付けを行い、看護介入の方向性を考えることができる。
3. 状況に対して、適切と考えられる看護介入を決定し、実際に行動することができる。
4. 看護活動に対する患者の反応に関心を向け評価・修正を行うことができる。

【単元】

主要な症状を示す対象者の看護演習

【内容】 シミュレーション課題演習

1. 血圧低下・意識状態に異常のある患者の看護 (担当 : 専任教員① 8 時間)
 - 1) 状況を知覚的に把握するための、重要な情報収集
 - 2) 情報の重要性と意味の理解した看護介入の方向性
 - 3) 状況に対して、適切と考えられる看護介入の決定と看護活動の実際
 - 4) 決定した看護活動を実施した患者の反応をもとに評価・修正
2. 発熱・脱水のある患者の看護 (担当 : 専任教員② 8 時間)
 - 1) 状況を知覚的に把握するための、重要な情報収集
 - 2) 情報の重要性と意味の理解した看護介入の方向性
 - 3) 状況に対して、適切と考えられる看護介入の決定と看護活動の実際
 - 4) 決定した看護活動を実施した患者の反応をもとに評価・修正
3. 浮腫・疼痛のある患者の看護 (担当 : 専任教員③ 14 時間)
 - 1) 状況を知覚的に把握するための、重要な情報収集
 - 2) 情報の重要性と意味の理解した看護介入の方向性
 - 3) 状況に対して、適切と考えられる看護介入の決定と看護活動の実際
 - 4) 決定した看護活動を実施した患者の反応をもとに評価・修正

【使用テキスト】

- ・臨床看護総論（医学書院）

【評価方法】

- ・パフォーマンス評価、受講姿勢

授業科目	地域・在宅看護論Ⅰ（地域で暮らす人々と家族の支援）	講師	専任教員 保健師 大学教員	14時間 12時間 4時間
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数 30時間

【目標】

1. 地域の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。
2. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる支援の必要性と概要を理解する。
3. 支援を必要とする家族の状況及びその支援について理解する。

【単元】地域の暮らしと人々の理解（担当：専任教員 14時間）

【内容】

1. むらしの基盤としての「地域」を理解するために（導入、演習説明）
2. フィールドワーク演習
3. 演習グループ発表

【使用テキスト】

- ・地域・在宅看護論①地域・在宅看護の基盤（医学書院）

【評価方法】

- ・課題、演習態度

【単元】健康の保持増進・疾病の予防に関わる支援（担当：保健師 12時間）

【内容】

1. 地域の人々の健康課題の理解
2. 保健活動の実際（保健センター見学、保健事業の見学）

【使用テキスト】

- ・富士市の保健（PDF版）

【評価方法】

- ・出席、レポート

【単元】家族の理解と支援（担当：大学教員 4時間）

【内容】

1. 地域において支援を必要とする家族の理解と支援（障害あるメンバーをもつ家族）
2. 支援を必要とする家族の事例検討（グループワーク）
3. 在宅生活の援助場面における生活環境改善への提案（ロールプレイ）

【使用テキスト】

- ・地域・在宅看護論①地域・在宅看護の基盤（医学書院）

【評価方法】

- ・演習態度（グループワークとロールプレイへの貢献）
- ・レポート

授業科目	成人看護学総論	講師	専任教員①	22 時間
専任教員②			8 時間	
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数 30 時間

【目標】

1. 成人の成長・発達から見た特徴を理解する。
2. 成人各期の特徴と発達課題を理解する。
3. 成人期の生活と取り巻く環境の特徴を理解する。
4. 成人各期の保健と動向を理解する。
5. 成人期の健康増進・疾病予防に向けた 対策と看護を理解する。
6. 成人への看護アプローチの基本を理解する。

【単元】

- ・成人看護学概論（担当：専任教員① 22 時間）

【内容】

1. 対象理解

- 1) 成人期にある人の理解
 - (1) 成人であるということ
 - (2) 生涯発達の特徴
 - (3) 発達段階・発達課題（エリクソン・ハヴィガースト）
- 2) 成人各期の特徴
 - (1) 青年期
 - (2) 壮年期
 - (3) 向老期

※演習（課題）：成人各期の特徴と発達課題

3) 成人期の生活

- (1) 生活の概念・生活環境
- (2) 職業生活・労働の実態と社会状況
- (3) 家庭生活・個人生活
- (4) ワークライフバランス・働き方改革

2. 成人への看護アプローチの基本

- 1) 成人の健康行動のとらえ方
 - (1) 成人の学習：アンドラゴジー
 - (2) 学習に基づく行動形成

2) 学習者である患者への看護技術

- (1) エンパワメント-エデュケーション

※演習（課題）：エンパワメント-アプローチの実際

- (2) セルフマネジメント教育

- ①コンプライアンス（アドヒアランス）を高める援助
- ②自己効力を高める援助
- (3) ストレスと健康生活
 - ストレス対処方法（コーピング）
- 3) 意思決定支援
 - (1) 意思決定とは (2) 意思決定のプロセス
 - (3) 意思決定支援 (4) 看護師の役割
- 4) 看護におけるマネジメント
 - (1) 看護の質の保証
 - (2) リスクマネジメント
 - (3) ケアマネジメント
- 5) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

【単元】

- ・成人保健（担当：専任教員② 8時間）

【内容】

1. 成人保健

- 1) 成人の生活
 - (1) 成人の生活状況
 - (2) 成人保健に関する統計
- 2) 成人期の健康増進・疾病予防
 - (1) 生活習慣に関する健康課題、生活習慣病対策
 - (2) 健康日本21・健康増進法・ヘルスプロモーション、予防のレベル
ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ
 - (3) 特定健診・特定保健指導
 - (4) 職業に関する健康課題、産業保健統計・職業性疾病・労働者のメンタルヘルス
対策・自殺

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験

授業科目	成人看護学Ⅰ (回復期・リハビリテーション看護)	講師	専任教員	12 時間
			理学療法士	2 時間
			作業療法士	2 時間
			病院言語聴覚士	2 時間
			脳卒中リハビリテーション看護	
			認定看護師	4 時間
			病院看護師	4 時間
			皮膚・排泄ケア認定看護師	4 時間
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数 30 時間

【目標】

1. 回復期・リハビリテーション期の特徴について理解する。
2. リハビリテーション医療の特徴および実際を理解する。
3. 回復期にあり、リハビリテーションを必要とする対象および家族を理解する。
4. 回復過程で生じやすい問題、リハビリテーション期の患者のニーズを理解する。
5. 回復期・リハビリテーション期にある患者への援助を理解する。

【単元】

- ・回復期・リハビリテーション看護（担当：専任教員 2 時間）

【内容】

1. 回復期・リハビリテーション期における看護
 - 1) 回復期・リハビリテーション期とは
 - 2) リハビリテーションの定義と理念
 - 3) リハビリテーション看護の対象と制度
 - 4) リハビリテーション看護の定義と専門性
 - 5) リハビリテーション看護の方法

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論（医学書院）
- ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

【単元】

- ・リハビリテーション医療

【内容】

1. リハビリテーション医療の特徴

- 1) 理学療法（担当：理学療法士 2 時間）
 <演習>自動・他動運動の援助
- 2) 作業療法（担当：作業療法士 2 時間）
- 3) 言語療法（担当：病院言語聴覚士 2 時間）
 嚥下リハビリテーション

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論（医学書院）
- ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（医学書院）
- ・系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学⑩ 耳鼻咽喉（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

【単元】

- ・各機能障害とリハビリテーション看護

【内容】

1. 脳神経系の障害とリハビリテーション看護
 （担当：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 4 時間）
 - 1) 患者の特徴、身体・心理・社会的特徴
 - 2) リハビリテーション期・回復期にある患者の看護
2. 運動器系の障害とリハビリテーション看護（担当：病院看護師 4 時間）
 - 1) 患者の特徴、身体・心理・社会的特徴
 - 2) リハビリテーション期・回復期にある患者の看護
3. 大腸癌でストーマを造設した患者の看護（皮膚・排泄ケア認定看護師 4 時間）
 - 1) ストーマ造設術の概要
 - 2) 回復期の看護、ストーマ造設術後の日常生活についての援助
 <演習> ストーマ管理

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（医学書院）
- ・系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学⑦ 脳・神経（医学書院）
- ・系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学⑤ 消化器（医学書院）
- ・系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学⑩ 運動器（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

【単元】

- ・回復期・リハビリテーション期患者の看護過程（担当：専任教員 10 時間）

【内容】

1. 回復期・リハビリテーション期患者の看護過程の展開
 - 1) 脳神経系に障害のある患者、または運動器系に障害のある患者の看護過程の展開

【使用テキスト】

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経（医学書院）
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器（医学書院）

【評価方法】

- ・レポート

授業科目	老年看護学総論	講師名	専任教員		
開講時期	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間

【目標】

1. ライフサイクルの中の老年期の身体的・心理的・社会的变化から老年看護の対象を理解する。
2. 社会構造の変化・高齢化にともう高齢者の生活を支える保健・医療・福祉の現状と課題を理解する。
3. 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の役割を理解する。

【内容】（グループワーク・課題演習含む）

1. 対象の理解
 - 1) 加齢と老化
 - 2) 老化モデル
 - 3) 身体的側面の加齢変化とその影響
 - 4) 心理的側面の加齢変化とその影響
 - 5) 社会的側面の加齢変化とその影響
 - 6) 生涯発達の考え方
 - 7) 高齢者の生活
 - 8) 老年期とは
 - 9) 高齢者の発達課題
 - 10) 高齢者とその家族
 - 11) 統計的輪郭からの高齢者の理解わが国の高齢化、世帯、健康状態、経済状況、死亡状況
2. 高齢者を支える保健医療福祉制度
 - 1) 保健医療福祉制度の変遷
 - 2) 医療保険制度と高齢者ケア
 - 3) 介護保険制度と高齢者ケア
3. 高齢者を支える職種と活動の多様化
4. 高齢社会における権利擁護
 - 1) 高齢者差別
 - 2) 虐待
 - 3) 身体拘束
 - 4) 権利擁護制度
 - 5) 看護倫理原則
5. 高齢者の残存機能の理解（シニアシミュレータ一体験学習）
6. 老年看護とは
 - 1) 老年看護の変遷と特徴
 - 2) 老年看護の展望と課題

【使用テキスト】

- ・老年看護学（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

授業科目	小児看護学総論	講師	専任教員
開講時期	1年次	単位数	1単位 時間数 30時間

【目標】

1. 小児看護の対象及び特徴について理解する。
2. 小児看護の変遷をその時代の小児観や看護から理解する。
3. 子どもの成長・発達を理解する。
4. 子どもが基本的生活習慣を身につける過程と子どもの関わり方について理解する。
5. 成長・発達段階における栄養について理解する。
6. 親子関係、子どもにとっての家族の役割と望ましい家族関係について理解する。
7. 小児をめぐる保護と福祉その政策や諸問題について理解する。

【内容】

1. 小児看護の特徴と理念
 - 1) 小児看護とは
 - 2) 小児と家族の諸統計
 - 3) 小児看護の歴史と意義
 - 4) 子どもの権利と看護
2. 子どもの成長・発達と看護
 - 1) 成長・発達の原則
 - 2) 発育の評価
 - 3) 乳児期の子どもの成長・発達と看護
 - 4) 幼児期の子どもの成長・発達と看護
 - 5) 学童期の子どもの成長・発達と看護
 - 6) 思春期・青年期の子どもの成長・発達と看護
3. 子どもの栄養
 - 1) 子どもにとっての栄養の意義
 - 2) 子どもと食育
 - 3) 食事摂取基準
 - 4) 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護
4. 家族の特徴とアセスメント
 - 1) 子どもにとっての家族とは
 - 2) 家族アセスメント
5. 小児を守る法律と制度
 - 1) 児童福祉
 - 2) 母子保健
 - 3) 予防接種
 - 4) 学校保健
 - 5) 特別支援教育

【使用テキスト】

- ・小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート

授業科目	母性看護学総論	講師	専任教員 12 時間 助産所助産師（男女共同参画審議会委員）3 時間		
開講時期	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

【学修目標】

1. 母性看護の基盤となるリプロダクティブヘルスに関する概念を理解することができる。
2. リプロダクティブヘルスに関する動向を理解することができる。
3. リプロダクティブヘルスに関する法律や施策を理解することができる。
4. リプロダクティブヘルスに関する倫理を理解することができる。
5. 生殖に関する生理について理解することができる。
6. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康課題について理解することができる。

【学修内容】（グループワークを含む）

1. リプロダクティブヘルスに関する概念（担当：専任教員）
 - 1) リプロダクティブヘルス／ライツ
 - 2) セクシュアリティ
2. リプロダクティブヘルスに関する世界・日本の動向（担当：専任教員）
 - 1) 出生に関する統計
 - 2) 死亡に関する統計
3. リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援（担当：助産所助産師：3 時間）
 - 1) 子どもと女性の保護に関する法律と支援
 - 2) 女性の就労に関する法律と支援
 - 3) 子育て支援に関する制度・施策と支援
 - 4) 暴力・虐待防止に関する法律と支援
4. リプロダクティブヘルスに関する倫理的課題（担当：専任教員）
 - 1) 人工妊娠中絶
 - 2) 生殖補助医療
 - 3) 出生前診断
5. 生殖に関する生理（担当：専任教員）
 - 1) ヒトの発生・性分化
 - 2) 性周期
 - 3) 受精、着床
6. 女性のライフサイクル各期の特徴と看護（担当：専任教員）
 - 1) 思春期
 - 2) 成熟期
 - 3) 更年期
 - 4) 老年期

【使用テキスト】

- ・母性看護学概論 母性看護学①（医学書院）
- ・母性看護学各論 母性看護学②（医学書院）

【評価方法】

- ・終講筆記試験、レポート